

みなさんの感想とご意見

今回の里川文化塾は、一般参加者以外に紙にかかわる仕事につく人が多く参加されました。それもあって休み時間にはナビゲーターやゲストに質問したり、参加者同士、活発な情報交換が行なわれていました。実演体験終了後に、参加者全員に心に残っ

たことや和紙利用の拡大について「伝統工芸ではなく現在進行形」「和紙に触れる頻度を増やす」「どこに旅行に行こうかと迷ったら、和紙の産地に行くといい。水の良い所に和紙産地あり」といった感想をいただきました。



自作の作品を持ってきて、デービッドさんに感想を求めた参加者もいました



伝統工芸ではなく現在進行形

- ・ 伝統を守るというのは違う、というデービッドさんのお話に衝撃を受けました。
- ・ 伝統工芸ではなく現在進行形だ、という話に感銘を受けました。
- ・ 越前和紙も美濃和紙も新しい使い方を開拓されているというお話をうかがいましたので、期待しています。
- ・ 活版印刷の会社を立ち上げて1年ちょっとになります。デービッドさんのお話に励まされて、もやもやしていたものが吹っ切れました。モーツァルトになぞらえて、伝統的なものが後世に伝わるのは古き良きものとしてではなくて、日常生活の中で若者男女に支持されるものとして存在できるようになればいいな、と思いました。名刺などをつくる際、小口で買うとなると単価が高くて手が出せません。価格がネックになっています。今後、杉原さんのところの紙が使えるようになりたいと思います。

趣味を極める

- ・ 定年退職してから版画を始めました。私以外にも、意外と興味を持っている人が多いのではないのでしょうか。そういう人をターゲットにした教室を始めたら、紙の消費も増えるのではないのでしょうか。
- ・ 学生時代、銅版画をやっていたのですが、木版画はあまり縁がありませんでした。最近、精密な版画をつくるデューラーに惹かれていて、デューラーも木版画でもやっていたように記憶していますので、私も少し木版画に挑戦してみようかな、と思っているところです。

和紙に触れる頻度を増やす

- ・ 洋紙を扱って6年ほど経つのですが、恥ずかしながら和紙についてはほとんど知りませんでした。今日、いろいろ教えていただいて、子どもたちに和紙づくりの全体像を見せることで、もう少し興味を持ってもらえるのではないかと思います。

- ・私は印刷の仕事をしております。会社案内をつくるたびに、どんなに良い企画やデザインでも差別化が難しいのですが、和紙でつくったら風合いの優しい素晴らしいものがつくれるのではないかと考え、印刷効果などを教えていただきたくてうかがいました。
- ・杉原さんがお話された、弱い絡まりだからかえって丈夫で長持ち、という繊維の絡まり具合が新鮮でした。和紙の風合いが大好きですが、なかなか身の回りで使うことがないので、できたら筆で和紙の葉書一枚でも書いてみたいな、と思いました。
- ・井の頭公園の中には、三桧がたくさんあります。ジンチョウゲ科なので挿し木でつきやすいので、和紙産地の街路樹は三桧にして剪定した三桧で小学生が和紙を漉く、とか、プロジェクトを考えると面白そうだな、と思いました。
- ・西洋版画の工房をやっていますが、和紙は本当にたまにしか使わないので、ヨーロッパの版画家からは「日本にはあんなに素晴らしい和紙があるのになぜ使わないんだ」とよく言われます。洋紙がスタンダードになってしまって和紙の良さに気づかないのは、和紙に触れていないのが原因だと思います。
- ・インテリアデザイナーをしておりますが、次の世代がないという職業が多くあることに気づいて、どうすれば継承できるかを考えるのが私たちに与えられた課題だな、と思っています。自分たちの暮らしの中に、どのように取り込んでいくかがとても大事。消費者がいれば、値段もこなれてくると思いますし。

和紙の特長を科学的に知る

- ・杉原さんのお話をうかがって、和紙の気持ち良さの理由がわかったような気がしました。日本の文化を語るときに「なぜ良いのか」ということが論理的に説明されてこなかったことが継承されない一因だと思います。ですから、今日は和紙の良さを論理的にお話しただいてとても勉強になりました。

産地の衰退が心配

- ・山で木を育てる仕事に携わっていることから、木の使い途としての紙という視点で参加しました。私は兵庫県の西宮市の出身で、小学校のときに名塩和紙を見学に行ったのですが、『水の文化42号 和紙の表情』の産地として載っていなかったのが、衰退しているんだなあ、と寂しく思いました。

水の良い所に和紙産地あり

- ・王子にあります紙の博物館から参りました。水の文化と紙ということで、私の考えとピッタリ合っとうれしく思いました。日本の文化の原点は水だ、と思います。どこに旅行に行こうかと迷ったら、和紙の産地に行くといい、と私どもの解説にも書かせていただいております。和紙はきれいな水が豊富でないとできませんので、和紙の産地は風光明媚でだいたいお酒がおいしい、女性がきれい、ということになっています。
- ・私は朝香元晴先生が主宰しておられる、匠木版画工房に通っています。水の文化ということで、和紙をはじめとする日本の文化が水と深くかかわっていることを再認識しました。和紙の良さや強さの秘密を垣間見られた気がします。

